

3年生

月間報告

2016年9月

生徒氏名: B

責任者:

【責任者とは】

授業では複数の講師がローテーションしながら1人の生徒を指導しますが、月間報告は1人の講師が長期的に担当し、生徒の成長を見守っています。また、この報告書は講師全体で共有され、授業に還元しています。

①今月の最重要課題とその対策

オチに関わる大切な情報を書き落とさないようにする

②その他課題と今月の対策(「今月の対策」は具体的な内容が必要な場合のみ記入します)

現状の課題	今月の対策
(作文)同じ表現を繰り返さず、別の言葉に言い換える	見直して表現の重複がないか確かめる
(作文)簡単な表現ばかり使わずに適切な表現を考える	内容確認時に踏み込んで考えさせる

③先月の教材ごとの取り組み数とその状況

教材名	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	状況
ロダンのココロ	1	1	1	2						順調に滑り出した
科学なぜどうして(初級)	1	1	1	0						良いときと悪いときの差がある

【取り組み数について】

上記の数字「1」や「2」は、作文を書き上げた本数を意味します。3年生からは90分授業となるため、まずは少なくとも『ロダンのココロ』を2本、ゆくゆくはそれに加えて『科学なぜどうして』も1本できることを目指します。

④責任者コメント欄

『コボちゃん』を卒業し、8コマ漫画の『ロダンのココロ』に移りました。要約の文字数は200字と変わらないのに対して、コマ数が増えたので、情報の取捨選択がより一層大事になります。まだ不慣れで大幅に字数を超えることもあったため、内容確認の時から大事な部分とそうでないところを区別できるように導いていきます。

この教材では犬のロダンが主人公となっており、人間とは異なるものの考え方やそれゆえに生じる勘違いがオチの面白さにつながっていることが多いです。しかし作文では、勘違いしてしまった「理由」や、それによって変化する「心情」を書き落としていることがしばしば見られました。今後はそのようなオチに結びつく重要な情報をしっかり入れられるようになることが目標です。

一方、これまでの課題であった「言い換え」に気を付けられており、ロダンが日向ぼっこをしている場面で、「気持ち良い」というセリフを「(暖かくて)嬉しい」と考え直すことができました。表現の言い換えによって語彙が増えるのはもちろん、単に別の言葉に置き換えられない時には場面や文脈を踏まえて「要はどういうことか」を捉える必要があります。そのようにして粘り強く考える姿勢は、普段の生活においてもとても大切です。

科学的な事柄に関する短い読み物『科学なぜどうして』という教材も取り入れています。生き物の生態や自然現象の仕組みが説明されており、その名前の通り「理由」を的確に捉えることを目的としています。作文ではそれができている時とそうでない時がありました。『ロダンのココロ』と同様に、「なぜそうなっているのか」ということまでを掴み取るように指導していきます。

4回目の授業では『ロダンのココロ』を2本書き上げることができ、数をこなすにつれてペースが良くなりました。それを安定させ、さらに『科学なぜどうして』も毎回1本できるようになることを目指します。

⑤保護者記入欄(要望、疑問などありましたら、どのような内容でも構いませんのでお書きください)

■3年生の作文について

小学校1・2年生から通っている生徒であれば3年生の時点で『ロダンのココロ』に入っていることも珍しくありません。入塾した時期や個人のペースによって、同じ学年でも取り組んでいる教材には差があります。しかし、まずは『コボちゃん』で作文の書き方に慣れ、じっくりと考える力をつけていきます。十分に数をこなしてから、情報量の多い『ロダンのココロ』に移ります。

確認印